

四倉地区市街地再生整備基本計画（素案）に対するご意見及び市の考え方

部課等名：都市建設部都市計画課

No	市民意見の内容	ご意見に対する市の考え方
1	<p>1 小学校・中学校生徒の通学的手段とルートについて</p> <p>表記については、特に素案には記載がありません。しかし、旧四倉と旧大浦では今までより通学距離が長くなる地区が生じます。対策として特に、小学生にはスクールバスを検討する必要があるのではないのでしょうか。(現に、四倉中学校では旧大野の生徒に対してはスクールバスを運行しているようですので、少なくとも旧大野については、引き続きスクールバスの継続を前提としているかもしれませんが。)</p> <p>また、次の「2」で述べる市道梅ヶ丘1号線の整備とも関連しますが、通学ルートの提示(想定)が必要ではないのでしょうか。</p> <p>2 アクセス道路の整備について</p> <p>アクセス道路の整備として記載されているのは市道梅ヶ丘1号線のみです。しかし、素案にも記載の通り、北側は家屋が連担して道幅が狭い区間が続きます。その対応として、交通量を示さないまま、拡幅なしで歩行スペースの路面標示というのは、説得力に欠けると言わざるを得ません。まず、現在の交通量を把握したうえで、通学ルートを提示(想定)して通学の安全性をきちんと示すべきだと思います。</p> <p>なお、私なりに旧四倉の通学ルートを考えてみると、徒歩通学については、常磐線の東側の生徒は町中を歩いて四ツ倉駅の小線人道橋を経由するルート、常磐線の西側(和具、町田等)の生徒は市道梅ヶ丘1号線を経由するルートとなり、スクールバスは県道小野四</p>	<p>小中学校の適正な通学距離については、国の基準において、小学生が概ね4 km以内、中学生が概ね6 km以内とされており、全国的にもこれらの距離を越えた場合が遠距離通学として一般的に通学支援の対象としています。</p> <p>この考え方に基づき、本市においても、小学校や中学校の再編により、自宅から学校までの距離が上記の距離を超えた場合は、児童生徒の遠距離通学に係る負担軽減を図っています。</p> <p>また、通学ルートの安全対策については、「いわき市通学安全対策推進会議(いわき市通学安全プログラム)」の枠組みを活用し、道路管理者や警察、教育委員会などの関係者が協力し、施設の供用開始前からルートを想定し点検及び対策を講じていく計画としています。(P41「(3)整備の基本的な考え方」、P44「(5)事業のロードマップ」参照)</p> <p>次に、市道梅ヶ丘1号線については、四ツ倉駅西側の主軸であることから、安全な歩行空間を確保する重要性を認識しています。</p> <p>その上で、当該路線の工場跡地より北側の区間においては家屋が連担している区間が多く、歩車分離の道路として大々的に沿線の方々の移転が伴う形での整備は現実的ではないことから、実現可能な整備手法を検討する計画としています。</p> <p>計画素案に示しているカラー舗装や車線分離標の設置以外の対策も含め、後年度の予備設計等の中で必要となる調査を実施し、具体的な整備内容を決定していく予定としています。なお、ご意見として頂いた、危険と想定される箇所については、今後の検討の参考とさせて頂</p>

<p>倉線と市道梅ヶ丘1号線を経由するルートになると思います。</p> <p>また、素案では旧大野の生徒の通学ルートは、市道梅ヶ丘1号線に至るまでが県道小野四倉線か市道上仁井田戸田線かがわかりませんが、市道上仁井田戸田線経由の方が近道だと思います。しかしながら、県道小野四倉線と市道上仁井田戸田線の交差点は県道の四倉方が切通のカーブで見通しが悪く、かつ市道も狭くて勾配が急なため、交通安全上問題があります。また、単路部も屈曲や幅員が狭い所があります。通学ルートを想定した上で道路整備を検討する必要があると思います。</p> <p>3 四倉小学校の跡地の取扱いについて</p> <p>四倉小学校は町中にあります。四倉の町中には、公園がひとつもありません。市民アンケートにも子供たちが、ボール遊びができる公園の要望があります。最近の子供の利用だけでなく、大人や高齢者向けのフィットネス用具を整備する自治体もあると聞きます。</p> <p>しかしながら、素案では原則、行政において活用の見込みのない土地・建物は民間への払い下げの方針とのこと。今回の市街地再計画は四倉の町中で公園用地が確保できる千載一遇のチャンスだと思います。跡地利用策として公園が一顧だにされていないのは残念です。</p>	<p>くため、P40「(2)主なアクセス路の状況」に追加します。</p> <p>次に、四倉小学校も含めた各公共施設の跡地活用については、将来世代に負担を残さないことを前提として、交流・防災拠点施設整備の実施段階において、既存の建物の状況や周辺環境等を踏まえ具体的な検討を行い決定していくこととなります。</p> <p>なお、本市は多くの公共施設を有しており、一層厳しい財政状況となることが予想される中、今回の事業も含め公共施設更新に向けた財源の充実を図ることは大変重要な視点となっています。</p>
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四ツ倉駅東側とアンダーパスで繋ぐ道路を作れないか。 <p>車では6号国道側から当該地へは北側か南側から遠回りして行くしかない。市道梅ヶ丘1号線は狭く、安全性を期待する為にも考えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記が対応できない場合は、駅東側に駐車場を設けられないか。 <p>使用されるか疑問はあるが、市道梅ヶ丘1号線の交通量を削減したい。</p>	<p>四ツ倉駅東側と西側とをアンダーパスや跨線橋で繋ぐ道路整備の声については、これまでも頂いていますが、物理的また財政的にも困難と考えています。</p> <p>四ツ倉駅東側の駅前広場には、一般車の停車スペースが設けられており、送迎に利用されることが推測されますので、供用開始後の利用状況にも留意していきます。</p> <p>次に、安全な道路交通環境の整備につきましては、児童生徒の安全</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・市道梅ヶ丘1号線にカラー舗装等の交通安全対策とあるが、車道が狭くすれ違いができるのか不安である。児童生徒を守る方策を立てつつ、自動車をどうするか考えてほしい。 ・建物は、ZEB化で考えてほしい。 いわき市が環境に配慮した施設としてアピールできる建物にしてほしい。建設の頃は、ペロブスカイト電池も相当普及していると思われる。 ・小学校跡地への四倉支所の移転を考えてはどうか。 支所は狭く駐車場も少ない。また、空地にオンサイトPPAでの太陽光発電を行ってはどうか。 	<p>を確保しつつ、ドライバーからの視認性を確保する方策などについて、後年度の予備設計等の中で必要となる調査を実施し、具体的な整備内容を決定していきます。</p> <p>次に、ご意見の「環境に配慮した施設整備」については、今後の施設づくりの重要な視点と認識しています。P32「施設づくりの考え方(環境等への配慮)」を追加します。</p> <p>次に、四倉支所の今後のあり方については、現在、公共施設全体を対象として施設類型ごとに、その施設の今後の方向性を示す「個別施設計画」を策定作業中のため、ご意見は参考とさせていただきます。</p>
3	<p>(1)四倉地区の小中学校を JR 四ツ倉駅西側の工場跡地に一貫校として整備される際、義務教育学校とすることを要望します。</p> <p>各地で整備された義務教育学校では、中1のギャップがなくなるとか、また学習面でもメリットがあると言われていますが、逆に高学年の自覚が待てない小6の壁や新しい人間関係を築くことが難しいと言ったデメリットも指摘されています。</p> <p>義務教育として新設される際には、他の地域の義務教育学校を参考に、小学の段階から中学の段階に進学する際にはきちんと式典を行うとか、学習の面や生活の面で、子どもたちを第一に考えて整備していただくことを要望します。</p>	<p>本市では以前から、小学校・中学校の区分は保ちながら、義務教育全体を見渡した中で、子どもたち一人ひとりの個別最適な学びと健やかな成長を目指していくため、小中一貫教育推進の取組みを行っています。</p> <p>今回、四倉地区では、義務教育学校で想定されるメリットも踏まえながら、地区の拠点施設としてふさわしい学校のあり方を検討してまいります。</p>
4	<p>第2章の2-1 四倉地区交流・防災拠点施設の整備に関する意見</p> <p>①四倉町内の小学校と中学校を統合することは止むを得ないと思いますが、統合にあたり、一つの義務教育学校(9年生)とすることを検討願います。</p> <p>理由としては、統合により町内の義務教育体制が、1小学校、1中学校になること。また“中学1年の壁”といわれる教育環境の変化</p>	<p>今回、四倉地区では、義務教育学校で想定されるメリットも踏まえながら、地区の拠点施設としてふさわしい学校のあり方を検討してまいります。</p> <p>次に、ご意見の「カーボンニュートラルの観点」については、今後の施設づくりの重要な視点ですので、P32「施設づくりの考え方(環境等への配慮)」を追加します。</p>

<p>に生徒がスムーズに移行できるとともに、幅広い年代のコミュニティが構築されるからなどです。</p> <p>②施設の整備にあたっては、カーボンニュートラルの観点から施設・設備の省エネ化、加えて太陽光発電システムや蓄電池・燃料電池等を整備するとともに、安全な地下水を活用した非常時の水源確保を図るなど、非常時には自立可能な施設とされたい。</p> <p>第2章の「2-2 安全な道路交通環境の整備」に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道梅が丘1号線の整備拡幅は必要ですが、この整備のみでは交流・防災拠点施設へのアクセスは極めて不十分です。このため、次のようなアクセスを中長期的な視点から整備すべきです。 <p>① 四倉停車場線について常磐線跨線橋を建設し東西の車両交通を確保すること。</p> <p>② 鬼越地区を通過し県道小野四倉線へのアクセス道の整備を図ること。</p> <p>③ 県復興公営住宅と市営住宅の間を通過する市道についても拡幅を進めること。</p> <p>第2章の「2-3 まちなかエリアの賑わい再生」及び「2-4 公共施設再編後の跡地の取扱い」に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらについては、これまでも様々なアイデア等は出されていますが、今後、地域づくりに意欲のある者誰でもが参加できるような形の推進会議を設けて議論を重ねながら、いつ、だれがやるのかという議論を深め、具体化できる施策・事業を適宜実現していくことが重要です。加えてロードマップの検討も必要です。 	<p>また、ご意見の「非常時には自立可能な施設」については、交流・防災拠点施設の整備、P30「施設づくりの考え方（安全・安心①②）」において「災害時に防災拠点として機能を発揮する設備の充実」を位置付けていますので、今後の仕様検討にあたって参考とさせていただきます。</p> <p>次に、四ツ倉駅東側と西側とをアンダーパスや跨線橋で繋ぐ道路整備の声については、これまでも頂いていますが、物理的また財政的にも困難と考えています。</p> <p>次に、市道梅ヶ丘1号線について、工場跡地から北側の県道小野四倉線へと繋がる区間については、四ツ倉駅西側の主軸であることから、安全な歩行空間を確保する重要性を認識しています。</p> <p>その上で、当該区間においては家屋が連担している区間が多く、歩車分離の道路として大々的に沿線の方々の移転が伴う形での整備は現実的ではないことから、実現可能な整備手法を検討する計画としています。</p> <p>計画素案に示しているカラー舗装や車線分離標の設置以外の対策も含め、後年度の予備設計等の中で必要となる調査を実施し、具体的な整備内容を決定していく予定としています。</p> <p>また、県復興公営住宅と市営住宅の間を東西に通過する市道雁又・内城線については通学路となることも想定されます。交流・防災拠点施設の供用開始前からルートを想定し点検及び対策を講じていく計画としていますので、今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>次に、ご意見の「まちなかエリアの賑わい再生及び公共施設再編後の跡地の取扱いの具現化に向けた検討体制及びロードマップの構築の必要性」については、今後、交流・防災拠点施設の整備進捗に合わせて具体的な検討を進めるにあたって参考とさせていただきます。</p>
---	---

<p>5 <u>検討会の在り方について</u></p> <p>ワーキンググループは民間意見の交換の機会として開催されましたが、専ら行政主導で進んで行くことに違和感を覚えました。</p> <p>多数の意見を一本にまとめ上げることは至極至難であり、取り留めのない一個人の要望ヒアリングとなることを避けるため一定の方向性を以って導く必要があることは理解できます。しかしながら、各関係機関より大人数を集めながらも、大方の時間枠を行政説明が占め、意見交換自体はごく短時間で個人の発言的なものであったと、参加者より若干失望の声が上がっています。</p> <p>行政側も活発な意見が出るように苦心され、車座にレイアウトするなど様々な工夫を試みていました。しかし参加する市民と行政との熱量の差は回を追うごとに開いていったように感じます。思うに要因のひとつは、「説明をする行政」対「サービスを受ける市民」の構図に終始してしまったことでしょうか。これからの社会において最も避けなければならないのは「他人事の公共性」であると私は考えます。税金を納めることに対し行政サービス（時に過大な）を求めることは対価では無いこと、誰しもが老いるその先に若い世代へ負債を残すことは避けなくてはならないこと、それらを「自分こと」に捉える思考は必須です。</p> <p>しかし検討会は回を追うにつれ参加者の認識力を鈍感にし甘受を誘うものとなりました。「工場跡地には公共施設が集約し便利になるのだ」「それならば我々の意見を多く取り入れたものとなって欲しい」「いつカタチになるのか 自分が生きているうちに出来るのか」もちろん、子供たちの世代に負債として残さないように、といった意見も多くなりましたが利他の精神からは離れた意見も見られるようになりました。整備計画が行政主導の青写真と映らないためにも、議事進行や登壇者は市職員や市外の招待者・有識者ではなく、この検討会に名を連</p>	<p>四倉地区の市街地再生に向けては、地域の関係団体及び市関係部署とで構成する四倉地区まちづくり検討会を令和2年8月に設置し、地区が抱える課題を共有しながら、令和3年5月に四倉地区市街地再生整備基本方針を策定し、今後の取り組みの方向性を示しました。</p> <p>その後、この方針に基づく具体的な取り組みの検討にあたっては、四倉地区まちづくり検討会を開催し、検討会から推薦のあった方々も含めてワーキンググループを設置すること、また、公共施設の抱える問題や法的制限なども踏まえ、事務局からたたき台を提示しながら意見交換を行い、検討を進めることとなりました。</p> <p>そして、ワーキンググループの検討にあたっては、四倉地区の未来の姿について、会議に参加の方々にも発表をして頂く場も設ける工夫を行ったり、実際に施設を利用される方や保護者等へもヒアリングやアンケートを行ったりするなど、多くの意見収集に努めてきました。</p> <p>ご意見のような議事進行や登壇者の選定については様々な手法があるものと認識していますので、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>次に、交流・防災拠点施設の整備に伴う各公共施設の跡地については、将来世代に負担を残さないことを前提として、交流・防災拠点施設整備の実施段階において、周辺環境等を踏まえ具体的な検討を行い決定していくこととしていますので、ご意見の「街並みや暮らし」についても参考とさせていただきます。</p> <p>次に、工場跡地の活用方針については、令和2年8月から四倉地区まちづくり検討会を開催し、地区が抱える課題を共有するとともに、今後の必要となる取り組みの方向性の検討を行い、地区住民へのアンケート調査なども実施し、交流・防災拠点施設の整備及び民間収益施設の誘導を位置付け検討を進めてきたものとなります。</p> <p>次に、交流・防災拠点施設の整備手法については、公共施設等の集約化や複合化を検討する場合、施設の効率的な整備・維持管理、効果</p>
--	---

ねる方々が代わりながら進めていけば良かったのではないのでしょうか。

最初は面倒で纏まりがなくても、我が町我がことになって活発な意見に繋がったのではないかと考えさせられました。

事業計画について

- ・ 工場跡地への集約により公共施設機能は一元管理化し目に見えた結果となって財政へ反映されることでしょうか。しかし虫食い状態となった街なかの賑わい再生は高齢化した商店街へ委ねられ、より一層の空洞化が進むことは明白です。最終的には用地処分によると、街並み形成を考慮しない民間事業化される懸念は大いに残ります。目の前の集約は成功しても後世に残る街並みや暮らしは置き去りにされていないのでしょうか。
- ・ 四ツ倉駅近接の利便性を最大限に活かした計画は議題に上らず、「いま必要な施設」を積み上げた整備計画に疑問があります。広範囲から多くの学生が通うことが可能な高校や専修学校ではなく、なぜ電車を必要としない公立小中学校を駅近接に集約すべきなのでしょうか。遊休地だから、他に利用価値がなかったから、ではなく四倉の街に人口が増え他にはない魅力的な地域と高める議論が先ず成されるべきではないのでしょうか。
- ・ 広大な敷地を有効活用する配置計画は熟考が必要です。土地利用計画図はあくまでイメージとありますが、住民市民が意見を出せるフェーズは残されていないように感じます。また、事業手法はPPP/PFIを念頭に置かれていますが、整備に加え維持管理運用を一元化で民間委託する手法は行政負担を軽減できるものの、市外大手が参入することは必至であり我がこと街づくりからは遠く離れてしまうと、四倉市民会議などでも声が挙がっています。検討会で意見に度々挙がったように、参加資格を四倉住民の声に

的な運用、トータルコストの削減を目的に、民間活力の導入可能性を調査し、様々な手法を検討した上で決定することとしていますので、ご意見の「地元の関わり方」についても留意し検討を進めていきます。

	<p>寄り添い住民自らが参画できるプロポーザル方式を検討すべきではないでしょうか。</p> <p>広大な工場跡地は駅に近接した一等地に変容し、その使われ方は非常に注意が必要です。無秩序な市街地形成を防ぐためにも、公共的側面で整えることは大変良いと思います。</p> <p>ここへ多くの公共施設を集約することが四倉の未来にどう繋がるのか、立地や周辺環境をどのように有効利用して発展してゆくべきかを、次世代を交えて十分に議論すべきではないでしょうか。検討会には30代以下の姿は見え、これから街を担う若者・学生・子供たちを参画するべきと考えます。また、会議に参加された方々が残り、行政と共にこの街の未来へ向けて協議し、官民協力をしながら、真の住民会議が実現されることを願っています。</p>	
6	<p>災害想定区域にあって老朽化した複数施設機能を、現在地で更新せずに工場跡地に集積し、設備の共用化でコスト低減を図ると同時に異種集団間の交流機会を通じた相乗効果を期すとの基本構想は、非常に良い考え方だと思います。(但し、公教育機能に対してPPP/PFI方式が適切なかどうかと、コスト低減が過ぎて魅力の乏しい施設にならないかが懸念点です。)</p> <p>以下、近隣住民としての立場から、当該施設に関する意見を述べます。</p> <p>1. <u>建築物のデザインについて</u></p> <p>建物の外観デザインについては、単純で画一的な四角いコンクリート造りの”公共建築”様式に留まることなく、優雅で品のある美しい立ち(建ち)姿を是非とも実現して頂きたい。</p> <p>再開発跡地の南側には既に県営の復興住宅4棟が立ち並んでいるが、残念ながらこれらに建築物としての景観的な美しさが備わってい</p>	<p>交流・防災拠点施設は、地域の皆様や施設を利用される方々に愛着を持っていただける施設となることは重要なことと認識しておりますが、一方で整備・維持管理に係るコスト意識も重要であるため、ご意見の「建築物のデザインの視点」については、今後の仕様検討にあたって参考とさせていただきます。</p> <p>次に、ご意見の「学校グラウンドの見え方」については、児童・生徒の活動を地域の皆様が感じることが出来る工夫は重要なことと認識していますので、ご意見にあるアイデアも含めて、今後の仕様検討にあたって参考とさせていただきます。</p> <p>次に、セキュリティと開放性の両立については、交流・防災拠点施設の整備、P30「施設づくりの考え方(安全・安心①②)」において「セキュリティラインの検討」を位置付けていますので、児童や生徒の安全を第一にした上で適切なセキュリティが実現できるよう、ご意見も参考としながら、今後、運営及び仕様の検討を行います。</p>

るとは言い難い。(当時の条件や目的が異なるので、良否を問題にする訳ではない。) また、現在の四倉小学校・四倉中学校と、大浦小学校の外観を比較すれば、明らかに後者の方に建築物としての美観が備わっている。

近隣住民の立場からすると、美しくなければ愛着は湧かず、大事にしようという気も失せる。結果的に日照、騒音、交通障害等のマイナス面についても被害者目線にもなり易い。

有名建築家も奇をてらった若手によるデザインも必要ないが、学校建築だからこう、公共施設であればこの程度といった既成概念に囚われることなく、是非とも相応の建築美を追及して頂きたい。

2. 学校グラウンドの見え方について

県営復興住宅から四ツ倉駅西口に抜ける線路沿いの遊歩道からは、法面の関係で学校グラウンドが全く見えない形になっている。(復興住宅の敷地に入れば西側から見えるが。) 日常的に児童・生徒が活動する様子を目に出来なければ、近隣住民としても自然と興味が薄れ、愛着も湧かず、何かあれば支援しようという気持ちも失せる。

法面の何か所かに小さい階段を設置する等の工夫により、遊歩道の通行者が気軽にグラウンド内の様子が見えるようにすべきである。

セキュリティを理由にした安易なブラックボックス化は、長期的には近隣住民のサポートを失うことにつながると思う。

3. セキュリティと開放性の両立について

同じ敷地内に幼稚園や学校と地域公共施設が同居することから、児童・生徒の安全のために必要な防犯措置を施すのは当然であるが、塀で囲って門を施錠するだけの単純で安易な方法はできるだけ回避して欲しいところである。

これまでの住宅地や郊外での立地と異なり、コミュニティ棟の利用者や近隣住民の多くの目が終日注がれている点では、むしろ学校とし

次に、ご意見の「排除アート」については、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方に反する場合があるものと認識していますので、ご意見は今後の仕様検討にあたって参考とさせていただきます。

次に、ご意見の「コミュニティ棟への入館方式」については、小中学校の特別教室との共用方法も含め、今後、施設運用のあり方を検討し決定していきますので、ご意見も参考とさせていただきます。

ご意見に記載のとおり、施設管理者と利用者、地域といった当事者間の対話を重ね、計画の実現を目指していきます。

での安全性は高まっている面もある筈である。

また、児童・生徒にとっては、日常的に親・教師以外の大人たちとも同じ敷地内で、時には設備を共用しながら生活する形となり、このことによる無形の教育効果も重要な筈である。

児童・生徒の安全確保を名目にして、コミュニティ棟利用者や近隣住民をアタマから不審者扱いするようなセキュリティ対応では、少しでも学校をサポートして行こう、児童・生徒に目配りを心掛けようと思う近隣住民の善意が削がれてしまう。

4. 排除アートについて

当該施設敷地内にはいわゆる排除アートや仕切りベンチなどを導入しないことをポリシーとして掲げて頂きたい。この手のものは当地のような地方都市の周縁地域には本来的に無用であるが、PFI 等を通じて紛れ込んでしまうことも考えられるので、事前に明確化しておくべきである。

学校では子どもに向かってイジメはダメと言いつつ、隣の施設で大人が理由を付けて弱者イジメを行うようなダブルスタンダードを毎日目にするような環境では、教育面でのダメージが計り知れない。

教育施設と地域公共施設が同居する日常だからこそ、十分な配慮と慎重な姿勢が必須である。

5. コミュニティ棟への入館方式について

衛生管理上の理由と、棟エントランスの混雑回避のため、コミュニティ棟への入館に関しては、スリッパへの履き替えではなく土足のままの方式を採用して頂きたい。

それぞれに利点欠点があるとは思いますが、いちいち靴を脱いで上がるのはどこか古臭い印象であるし、ベビーカー、幼児、車椅子の利用者などを考えれば、可能な限りは土足方式が適切かと思う。

尚、体育館機能など、個別施設の内部については、その施設の性格

<p>によっては履き替え方式があっても構わないのは当然である。</p> <p>以上、近隣住民の立場から、計画素案を一読しての感想・希望を記しました。</p> <p>同一敷地内に大規模に学校機能と地域公共施設が同居・共存する形式は、これまでの単独立地での経験では対処し難い課題も発生すると思われます。機能・施設間での複雑な利害対立や、解決に向けての妥協・調整などのケースも増えることが予想されます。</p> <p>これらについては施設管理者の側で一方向的にルール化して利用者に押し付けるべきものではなく、逆に利用者側が施設管理者側に何とかしろと責任を押し付けるべきものでもないように思われます。</p> <p>当事者間(児童・生徒も含む)での十分な協議を通じて双方の状況・事情を理解すること自体が、計画本来の相互学習・相乗効果の趣旨に沿うものであり、これを促す機会や場を提供することも本施設のソフト運営面での成功につながるための、行政・管理者側の重要な機能のひとつではないかと思ひます。</p> <p>本計画の今後の着実な進展を期待しております。</p>	
<p>7 四倉町在住、小学生の子を持つ者です。</p> <p>小中学校の統合・移転計画について、現計画では7年後の運用開始と伺っています。</p> <p>計画の主たる部分に、施設の老朽化、災害対策があげられていますが、7年は遅すぎませんか？</p> <p>もちろん建設等計画・施工までには十分な時間を要することは存じております。</p> <p>しかし、四倉町には水害避難に適した高台が少ないこと、教室棟の老朽が著しいこと、東日本大震災では四ツ倉駅まで津波が到達したことから考えても7年は遅すぎます。</p>	<p>交流・防災拠点施設の運用開始時期については、複数の施設の統合や民間活力の導入に係る検討など大きな事業となりますので、これまでの実績を踏まえますと、基本計画策定後から概ね6～8年後の供用開始を見込んでおります。しかしながら、地域や学校の保護者からも早期整備の声が挙がっており、また、整備する施設の性質からも可能な限りスピード感をもって取り組んでいきます。</p>

	<p>国も自治体も、マイナス側に考えて防災意識を高めて欲しいと常々仰ってます。</p> <p>河川の堤防、沿岸の防潮堤の整備で浸水想定危険が軽減されているという声も聞こえますが、それは机上の空論であり、呼びかけに矛盾していることとなります。</p> <p>簡単にはいかないことも承知した上で、早期の運用開始を目指して計画期間の短縮を要望します。</p>	
8	<p>1 小学校と中学校が整備されるなら、義務教育学校の検討もしてはいかがでしょうか。</p> <p>2 学校にはプールも整備されると思いますが、プール水をトイレの洗浄水として普段から利用してはいかがでしょうか。同敷地内の他の施設にも給水できると思います。</p> <p>学校と施設の全トイレでなくても、プールの近くや建物の1階のトイレの洗浄水として利用すれば、地震による断水時、避難所の衛生管理に役立つと思います。SDGsにも対応します。</p> <p>既存の学校でも、校舎側の配水管を一部改良（止水弁、給水バルブの追加）し、必要時には、プールからポンプとホース（消防のホースのようなもの）でつなげばトイレの洗浄水として利用できないでしょうか。事前に改良することにより、避難所となった際に役立つと思います。ホースではなく配管できる方がいいですが、震災時等の一時対応であればポンプとホースでもいいのではと思います。検討をお願いします。</p> <p>中央台公民館は、体育館の地下に雨水を貯めトイレの洗浄水として使用していて、先の震災時、学校がプールからトイレにバケツで水を運んでいたのに比べ、避難所としての衛生管理が良かったです。</p> <p>3 学校の近くにデイサービス施設も併設し、利用者の送り迎えの車</p>	<p>今回、四倉地区では、義務教育学校で想定されるメリットも踏まえながら、地区の拠点施設としてふさわしい学校のあり方を検討してまいります。</p> <p>次に、プールの排水の利活用については、トイレの洗浄水や植栽の灌水、消防水利に再利用している自治体の事例もありますので、今後の仕様検討にあたって参考とさせていただきます。</p> <p>次に、ご意見のようにデイサービス施設の送迎の運行などを、地域輸送資源と捉える考え方は、子供たちに限らず、地域における移動手段確保の一つの視点として、今後、調査・研究を進める上での参考とさせていただきます。</p>

	<p>両と一緒に小中校生も乗れるようにすれば、スクールバスの代替えにもなるのではないのでしょうか。学校とデイサービスの開始時刻の調整は必要ですが。</p> <p>また、給食についてもデイサービス利用者も実費を払い食べれるようにすれば、児童生徒数が減っていく中でも、給食事業の継続にプラスにならないのでしょうか。</p>	
9	<p>安全・安心が担保されたまちづくりは当然の取り組みと捉えています。その上で、整備に必要となる費用について十分な議論が必要だと思います。</p> <p>なぜなら、税金で整備するということは、その分、市民から徴収する税金が増える可能性があるからです。</p> <p>子ども達のために整備する建物等により、将来的にその子ども達自身の負担となるならば、やらない方がいいと親は考えます。</p> <p>建設ありきでなく、慎重に議論すべきです。</p>	<p>交流・防災拠点施設の整備において、集約・複合化の対象とする多くの公共施設については、供用開始から40年以上が経過し、施設の老朽化が進行していることから、今後も同じ様に維持していこうとすると、原状の維持や性能向上のための改修費には相当のコストがかかります。</p> <p>そのため、交流・防災拠点施設として、複数の行政サービスを集約・複合化（多目的化）することで諸室等を共用し、建設費や管理運営費の削減を図り、併せて相互の交流拡大も図る計画としています。</p> <p>これまで市内では、施設整備に要する費用や活用できる国の補助制度などについて調査・研究を進めてきており、基本計画策定後には、施設の効率的な整備・維持管理、効果的な運用、トータルコストの削減を目的に、民間活力の導入可能性を調査し、様々な手法を検討していくこととしています。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・半分は夜の森公園、白土公園、下の町公園の様、南半分は公共施設（一時避難所を兼ねる） ・市民の健康の為 鉄棒うんてい等、肩こりや腰痛を解消する為のお金を掛けず、外の空を吸いながら、運動のできる空間を設けて欲しい。ストレス解消の桜並木等々 ・そして何よりも大切な災害が起きた時の為の一時避難所、仮設住宅 	<p>工場跡地の土地利用計画については、交流・防災拠点施設の規模やグラウンドの大きさ、鉄道駅や道路からのアクセス性を踏まえた計画として検討しています。（P33「(6)整備の予定地」、P35「(7)土地利用計画」参照）</p> <p>また、交流・防災拠点施設の導入機能の一つに、災害時の避難所・避難場所を位置付け、施設づくりの考え方を示したところです。（P23「(4)導入する機能と施設の規模」、P30「施設づくりの考え方（安全・</p>

	<p>を建てる為の大きな広場 しかも商業地に近く不便で無い所。見た目も美しく癒される場所 公共施設に関してはおまかせ致します。</p>	<p>安心①②)」参照) 次に、交流・防災拠点施設は多くの世代の方が学び、交流する施設 となりますので、居心地が良い空間の創出を目指します。ご意見の「運 動ができる空間」などについては、今後の仕様検討にあたって参考と させていただきます。 次に、交流・防災拠点施設については、前述のとおり避難所・避難 場所の機能の導入を位置付けています。また、グラウンドについても、 車の乗り入れが出来るように動線を確保し、災害時においても最大限 の活用が出来るように検討しています。</p>
11	<p>2-2 安全な道路交通環境整備について 【通学路となる路線における危険な箇所】への追加 理由：40ページの意見箇所は、通学安全対策会議における危険個所の 現状での確認においての想定・検討された箇所と思われませんが、現在 改良中の戸田地区から鬼越地区を縦断する市道「矢ノ田・箒作線」は 含まれていないので、危険な箇所に加えていただきたい。 市道「矢ノ田・箒作線」は、改良工事中で現在封鎖されており、開 通後の車両通行を想定した場合、四ツ倉駅や交流施設への車両数はか なり増大することは明らかであると考えます。また、他地域からの車 両運転者による危険運転も危惧され、鬼越住民の子供や高齢歩行者に 配慮した歩道等の安全対策をして頂きたいと思えます。 その他 ①今後、交流施設の工事が始まると、大型ダンプ等工事車両の通行 があると思われませんが、住民地域への進入を避けるなどの交通規 制などの安全対策を万全にして頂きたい。 ②現在の交流施設予定の敷地は、きれいに草刈り等の管理が行われ ているが、除草等がされないと防犯・衛生・火災・不法投棄の心</p>	<p>市道「矢ノ田・箒作線」については、ご意見を踏まえ、「現在工事中 であり交通量の増加が想定される箇所」として、P40「(2)主なアクセ ス路の状況」に追加し、今後の検討の参考とさせていただきます。 次に、工事の際の安全対策については、ご意見のとおり、安全を第 一として施工業者と協議を行い、万全を期して実施していきます。 次に、整備予定地については、現在は民間企業の所有となっております が、土地取得に向け、市が無償で使用貸借を受けていますので、ご意 見のとおり、適切に維持管理を行っていきます。 次に、防犯灯の設置については、行政区の負担によることが基本と なり、市も支援を行っています。その上で、交流・防災拠点施設にお いては、外灯などの付帯施設について検討を行うことから、ご意見は 検討にあたって参考とさせていただきます。 次に、交流・防災拠点施設の体育施設（体育館、サブアリーナ）に ついては、小中学校の体育の授業に利用することを考慮した仕様を考 えておりますので、ご理解願います。 ご意見のような居心地のよい空間の創出に向けては、特にコミュニ ティ施設の内外において、維持管理にも考慮して検討していきます。</p>

<p>配があることから、空き地の管理を適切に行って頂きたい。</p> <p>③施設や路線の安全対策として防犯上、防犯灯の設置を行うと思いますが、地域住民の負担とならないよう交流施設内での防犯灯設置・管理を行って頂きたい。</p> <p>2-1 四倉地区交流・防災拠点施設の整備</p> <p>(4)導入する機能と施設の規模 P23</p> <p>体育施設のサブアリーナについての意見</p> <p>サブアリーナについては、床材ではなく人工芝を検討していただきたい。</p> <p>理由</p> <p>災害時の避難所となる場合、冷気を感じる床材より、温かみのある人工芝が適していると思う。</p> <p>交流の場として利用する場合、これから高齢化社会に伴い高齢者が利用を考慮し、膝や運動時の転倒を恐れて運動をされていない高齢者も多く、人工芝にすれば、幼児や高齢者の他地域からのスポーツ大会開催で交流が出来ると思われる。</p> <p>当四倉地区はウォーキングを楽しむ人達が多く、雨天時でも使用ができるスポーツの場として、地域交流の体育施設が必要と考える。</p>	
--	--